

令和6年度 特例の教育課程の実施状況報告

1. 学校・市町村概要

名護市立真喜屋小学校

・教育目標: ○よくがなが得る子 ○思いやりのある子 ○元気な子

・所在地 ●沖縄県名護市真喜屋571番地

・児童数

学年	小学校								中学校					小中計
	1	2	3	4	5	6	特別支援学級	計	7	8	9	特別支援学級	計	
児童生徒	5	12	7	19	11	9	5	68						
学級数	1	1	1	1	1	1	3	9						

○名護市概要【人口】64,548人【学校数】小学校11校、中学校6校、小中一貫校2校

2. 教育課程特例の取り組み・概要

ねらい

- 歌や遊びなどの活動を通して、英語特有の発音やリズムに慣れる。
- 間違いをおそれず、英語発音をまねし、進んで発話する。

3. 取組の工夫:教科等の系統性・連続性を踏まえた学習指導【系統図や指導計画の作成・活用】

本年度より、「よんな～よんな～プロジェクト(YYP)」を中心に外国語活動を進めていった。YYPは、3つの名護市英語ゴールを達成するため、児童の学びの進捗に合わせた授業デザインで以下の流れで実施した。

- (1)導入:知っている英語を進んで自由に発言して板書する。児童に自分の知っていることを手掛かりに学べるという思いにさせ学習をスタートさせた。TPR(トータル・フィジカル・レスポンス)を使い、身体を動かしながら言葉を体感することで帰納的に言葉の意味をつかませた。
- (2)展開:相互のコミュニケーションをベースにした言語活動を実施した。言語活動は、全体→グループ→ペア→ひとりの定着へのプロセスとした。
- (3)ゴールダウン:英語絵本の読み聞かせでは、解説を一切行わず、知っていることを手掛かりにして想像力を働かせ内容をつかませていった。
- (4)振り返り:(3)の読み聞かせの内容について気づいたことや思ったことを自由に発言させシェアさせた。



4.これまでの成果と課題、今後の取り組み

【成果】

- 導入で自分の知っている英語を積極的に発言し、自信を持って楽しく活動できた。
- ゲームをしながら、英語発音を真似することができるようになってきた。
- 自分の名前を言ったり、人に名前をたずねたりすることができるようになった。
- 自分の好きなもの(色やたべもの等)を英語で伝えることができるようになった。

【課題】

- 英語活動の時間以外の日常生活の中(朝の会)等でも、習った言葉を活用させていきたい。